

1 現状のおさらい

■ 年齢階層級別人口

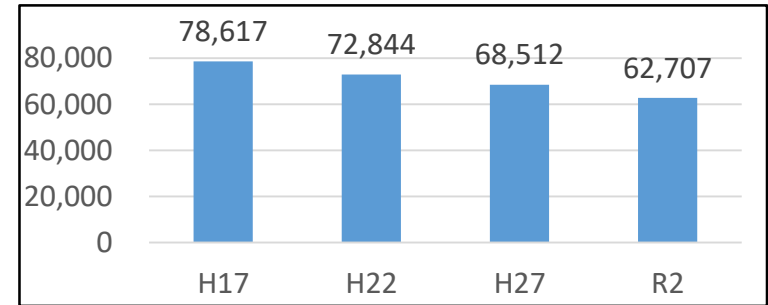
単位：人

	0~4才	5~9才	10~14才	15~19才	20~24才
H17	3,226	3,151	3,718	3,954	3,519
H22	2,870	3,068	2,925	3,215	2,618
H27	2,483	2,734	2,878	2,596	2,550
R2	1,969	2,247	2,478	2,535	2,167

(国勢調査 各年1.1現在 (幌延町を含む、H17年及びH22年は3.31現在))

■ 管内人口

単位：人



(国勢調査 同左)

管内においては、①**出生数の減少**とともに、②**若年層が管外へ流出**（②は①に繋がる悪循環により、少子高齢化や人口減少が加速）

■ 新規高卒者の進路内訳

単位：人

区分(人)	R2.3月	R3.3月	R4.3月	R5.3月
卒業予定者	449	440	413	410
進学希望	297	282	253	264
就職希望	145	145	148	136
管外希望	40	49	46	35

ハローワーク稚内の資料より当方作成

■ 有効求人倍率（宗谷はHW稚内）

単位：倍

	H30	H31	R2	R3	R4.5
宗谷	1.38	1.56	1.41	1.62	1.65
全道	1.17	1.19	0.96	0.98	1.00

北海道労働局資料より当方作成

年々生徒数（卒業生）は減少、管内7高等学校の就職希望者の地元志向は比較的高い

コロナ禍においても、有効求人倍率（HW稚内管内）は全道でもトップクラスの高さ

2 テーマ設定の考え方

大きなテーマ

I 新規高卒者の管内就職の促進

II 若年層における職場定着・離職防止

III 管外からのUIターン促進

IV 外国人技能実習生（特定技能）の活躍促進

- 短期間で成果を生み出すには困難なテーマであるが、人手不足はもとより、人口減少や高齢化に伴う地域の活力低下を防ぐ意味では、特に力を入れていく必要。
- 進学等による一時的な流出はやむを得ない面があるが、問題は、**流出した「後」の呼び戻しの方策。**
- 会議の中で効果的な取組（アイデアベース可）を検討し、速やかにモデル的に実施。宗谷の将来を支える産業人材を**一人でも呼び戻す。**

(参考) 前回会議で提示された論点 (抜粋)

- 高校卒業後、大学や専門学校への進学のために宗谷を離れることは、**本人のキャリアアップのためにも重要。**
- **縁故のない管外人材よりも、まずは管外に進学した大学生等をターゲットとすべきではないか。**
- **高校卒業後～大学等卒業（卒業後数年間）までの間に、地元企業の情報を知る機会が必要ではないか。**
- **進路に大きな決定権を持つ両親へのアプローチは出来ないだろうか。**

(参考) UIターン促進に係る行政や地域の取組例

- UIターン、移住フェア等への出展
- 農林漁業の魅力伝える冊子や動画作成
- 宗谷の魅力発信
- 移住支援金 など



UIターンフェア

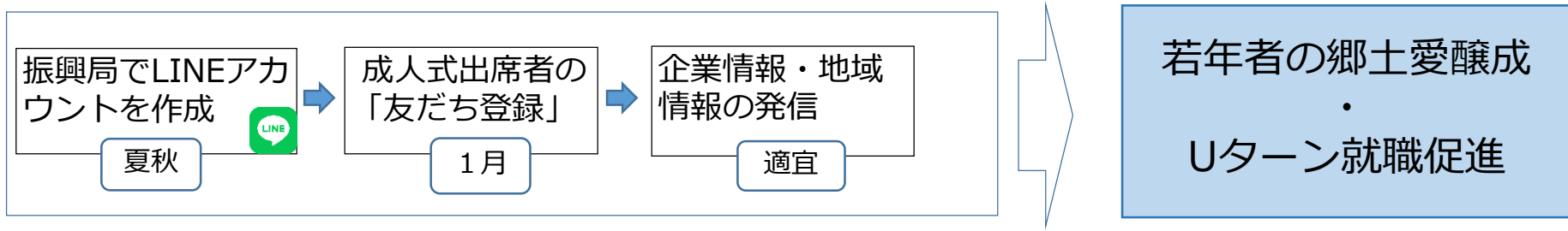
3 取組内容

考え方

- 少子高齢化や若年者の流出が続く管内において、人手不足の加速に繋がる人口減少は喫緊の課題
- 「UIターンフェア」出展等の取組は引き続き実施するが、縁故のない「移住」や「Iターン」は難度が高く、まずは、進学等により管外に流出した若年者の「Uターン（就職）」を狙うことがより効果的

手法

- ① 進学等により管外流出した若年者に対して、成人式等の機会を活用して接触し、LINEの「友だち」登録を行う。
- ② LINEにより、継続的に企業情報や地域情報を発信することにより、就職・転職時のUターンに繋げる。



課題（皆さんからのご意見をいただきたいこと）

準備段階

- 市町村や高校、保護者の協力（在校生（特に管外進学希望者）への登録を促すことが出来れば大きな効果）
- 成人式以外の接触可能性

成人式

- 成人式でのブース確保や対象者（管外在住者）の捕捉方法
- 景品など多くの登録を得るためのインセンティブ
- 簡素な登録方法と一手間なアンケートなどとのバランス

登録後

- 個人情報の管理（他のSNSと同様）
- 若年読者が興味を引く情報内容その頻度
- 景品などブロックを防ぐためのインセンティブ
- 効果検証の時期・方法